

サミット会議

『地域特性を活用したまちづくり』

本廣 隆久（山口市企画財政部長）

皆さんおはようございます。

昨日は、雪舟サミット第1日目の各行事に御参加いただきましてありがとうございます。お疲れのこととは存じますが、引き続き本日もよろしく願いいたします。

申しおくれましたが、私本日の司会を務めさせていただきます山口市企画財政部長の本廣でございます。どうかよろしく願いいたします。

まず初めに、本日の日程について御紹介させていただきます。

これから交流会議をお願いいたしますが、この会議が終了いたしましたら、玄関にバスが待っておりますので御乗車をお願いいたします。山口市内の視察ということで、インテリジェントビルのニューメディアプラザ山口、あるいは雪舟ゆかりの常栄寺、雲谷庵といった山口市の先進的な面と歴史的な面を取りまぜまして、御案内をさせていただきたいと考えております。そして、午後3時ごろにはこちらのホテルへお送りいたしたいと考えております。なお、小郡駅の方が御都合のよろしい場合は、午後3時30分までに小郡駅の方まで送らせていただきます。

それでは、御案内いたしております雪舟ゆかりの自治体のトップの方々によりまず交流会議を始めさせていただきます。交流会議の進行役は、開催地の佐内山口市長をお願いいたします。

それでは佐内市長、よろしく願いいたします。

佐内 正治（山口市長）

佐内でございますが、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

皆さん、昨晩はゆっくりお休みいただきましたでしょうか。ただいまから交流会議を開かせていただきます。お手元にスケジュールがあると思いますが、きょうは先ほどの説明ございましたように、今から10時20分までの1時間20分しか時間がございません。時間的な制約もございますが、率直な御意見等もお伺いいたしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

お手元の資料に掲げてございますように、今回の交流会議のテーマは、「地域特性を活用したまちづくり」となっております。それぞれ取り組んでおられるまちづくりについては、雪舟に関連したもの、あるいはそれ以外のものといったようにさまざまなものがあるかと存じますので、全部をひっくめて総論的な御発表をいただければ、とそのように考えております。したがって、まず最初にそれぞれの市や町で取り組まれているまちづくりを、今後の展望を含めて7、8分程度で報告していただきたいと思っております。

なお、事務局の方で各市町のスライドを用意いたしておりますので、こちらにスライド

を使って説明していただきますと、理解も深まろうかと存じますので、よろしく願いいたします。

それでは、まずあいうえお順ということで、最初に大野町さんからお願いをいたしたいと思えます。

三浦 寛喜（大野町長）

おはようございます。

御指名がございましたので、トップバッターということで大野町から、地域の特性を活用したまちづくりの取り組みの状況等を7、8分間と限定されておりますが、申し上げます。

大野町の取り組んでいる、柱になるわけでございますが、第1点は、楽しい生活環境づくりということです。

2点目には、農業立町でありますので、活気ある産業づくり・つまり、もうかる農業、魅力ある農業ということです。

3点目は、たくましい人づくり・つまり人材育成ということを中心にしています。

これまでの農村という発想を超えて、雄大な大野町という農村の暮らしのアメニティや豊かさを正しく情報化できないかと考えているわけございまして、本当に農村の豊かさ、楽しさというものを創造し、実践し得る時代だと、このように考えているわけございませぬ。大野町では、昨日も時間がございませぬで簡単に申し上げましたが、大分市より熊本方面に40キロ行った、時間的には1時間程の距離にある県下最大の畑地帯を持った農村でございます。この広大な畑を潤すため大野川中流域の開発計画の一環として、昭和44年から総工費140億円、そして20年という歳月を費やし、大野原地区かん排・畑総事業に取り組み、今日では1,160ヘクタールのかん排事業、それから350万トンの師田原ダムの完成をみたところでございます。

このように、生産基盤の整備を行い高生産農業の振興と担い手を確保するというところで取り組んでまいりました。その結果、一昨年は集中豪雨、昨年は台風というダブルパンチを受けましたにもかかわらず、そういった生産基盤のおかげで平成3年度の農業総生産額では、37億8,000万円という実績を上げることができたわけございませぬ。

さらに、今年4月に全国に先駆けまして農道空港が完成をいたしまして、軽くて小さくて値段のいい、いわゆるニューフライト製品の生産に今拍車をかけておるところでございます。

このように農道空港を起爆剤にして、農業、工業、そして商業、芸術文化の振興ということに取り組んでいるところでございませぬ。

さて、雪舟さんとかかわりの沈墮の滝でありますが大野川の本流の沈墮の滝は高さが17メートル、幅が93メートルの雄滝と、高さが18メートル、幅が4メートルの雌滝の2つからなっているわけございませぬ。大野のナイアガラの滝とも呼ばれておりまして、滝つぼの深さはいまもって不明でございます。先ほど先生からもお話がございましたが、文

明8年、1476年に、雪舟さんが57歳のころ大野町に足を伸ばされまして、鎮田瀑図を描いたものでございます。地元では、こうした有名な滝を何とか利用いたしまして、わがふるさとを誇り得る町にしようということで、滝ん子会という会をつくり、滝周辺の環境整備に取り組んでおります。したがって、町の方といたしましても定住事業等を導入し、沈墮の滝の周辺整備事業を行い、遊歩道、公園等を整備してまいったところでございます。

また、ここには九州電力株式会社の発電所がございまして、こういった九電とも連絡をとらせていただきまして、この整備をさらに充実していこうと考えているわけでございます。

また、この滝には昔からいろいろと滝にまつわる民話がございますが、時間の関係で資料等にもありますので、これは省略させていただきます。

次に、観光の代表的な名所や旧跡の紹介であります。まず最初に烏帽子公園の御紹介を申し上げます。烏帽子岳の山ふところに抱かれました「ぼたん桜公園」には、今現在約1,000本のぼたん桜が植わっており、吉野桜が終わったころの4月下旬から咲き誇りまして、これも開花の時期が長く見ごたえのあるものでございます。このぼたん桜が町花、いわゆる町の花でございますので、平成2年に町中に町民ぐるみで、このぼたん桜を町道、農道、県道、国道そういったところにも、関係者に御理解いただきまして植栽をしましてまいりました。やがてこれは、町中がぼたん桜の花に埋もってしまうというような楽しいことを目指して頑張っているわけでございます。

次に、師田原ダムの火祭りであります。先ほど申しました畑地帯を潤す、いかに干ばつがあろうとも大丈夫だというこの師田原ダムを構築いたしました。これは1,160ヘクタールという畑地帯を潤すものでございまして、このダムの建設で水没をした周辺の青壮年十数名が、今から7年前になりますが、何とかこのダム周辺を利用して活性化していこうということで火祭りを計画いたしました。盆踊り、あるいは昔から稲等に来る害虫を駆除する小・こ・松・だ・明・い・というのがありますが、そういう小松明とあわせて、盆踊りをしながらこのダムで花火大会をしようということから始められ、今ではこれが有名になりまして、盆に行われるこの火祭りに県内外から、1夜に1万人近い方が訪れ、駐車場に困っているというようなところまでこぎつけることができました。さらに昨年、若者のこうした活性化に取り組んだ実績というものが高く評価されまして、県から表彰も受けた次第でございます。

次に、ふるさと体験村であります。先ほど基本的なことを申し上げてまいりましたが、恵まれた自然を生かすために、山間を流れる清らかな水、あるいはそういった緑豊かな地形等を利用いたしまして、自然で遊ぼう、自然にふれあい体験をしようということで、炭窯等をつくったり、あるいは体験農園等を周辺につくりまして、広く都会から来た子供達と地元の子供達との交流の場として、あるいは自然で体験をしていただくというために、ここに立て穴住居式キャビン等をつくりました。さらに自然の川を利用した河川プール等もつくりまして、ふるさとの素晴らしさを体験していただくふるさと体験村をつくったわ

けでございます。

次に、農道空港であります。この農山村の冷えきった農業を活性化する浮揚策ということで、この農道空港、正式には豊肥地区農道離着陸場というのでありますが、これが九州のど真ん中の大野町に採択され、4月に完成いたしました。総工費8億5,000万円で、土地は畑や山森を約12ヘクタール費やしまして完成をし、4月15日から1番機が飛び立ち、農家の夢と希望を乗せて消費地に運んでいるということでございます。今のところ、大分ネギと生シイタケとカボスというようなものが主な産物でございますが、さらにこれをふやしていこうと考えています。これは、新鮮な野菜を1時間でも早く消費地の食卓にということを目的としているわけで、おかげで今までの土地利用型の米麦農業から、季節を先取りにする施設園芸というもの、つまり小面積から高価なものをつくる集約型農業というものへ移りつつあるわけでございます。将来これを多目的に利用しながら、活性化を図っていこうという考えでいます。

次に、健やかふれあいパークであります。この農道空港の周辺に総合運動公園として、硬式野球場、陸上競技場、それからゲートボール場10面、テニスコート3面というような施設を整備し、周辺道路はばたん桜街道として、農道空港の周辺を活性化していこうというものでございます。

最後に、人材育成であります。何と申しましても町づくりの基本になる町勢発展の基本になるものは人づくりであるわけでございます。したがって、町では進んだ町づくり、あるいは地域づくりをしている先進地等、全国のそういった目覚ましいところにやる気のある人々を派遣いたしまして1週間ないし2週間、泊まり込みで触れ合い、体験をしながらふるさとに帰り、そういった成果を生かして、自らが活動家、実践家になっていただくということでの人材育成に力を入れているところでございます。

地域の特性を生かした町づくりの取り組みの一端を、御報告申し上げたわけでございます。

以上、大野町の取り組んでいる状況等を御理解いただきながら皆さんの御指導をいただきたいと思っております。

どうもありがとうございました。

佐内 正治（山口市長）

どうもありがとうございました。どうぞ皆様方拍手をもって……。

続きまして、川崎町さんお願いいたします。

福永 一雄（川崎町助役）

おはようございます。

町長がのどを痛めましたので、かわりまして助役の福永でございますが、御説明を申し上げます。

私の町は、福岡県の旧産炭地域の筑豊の一角にございまして、およそ36万平方キロメートルの町でございます。昭和12年に、川崎村と安真木村が合併をして誕生いたしました。

川崎村というのが町の北部にございまして、戦前戦後を通じまして石炭採掘で栄え、特に戦後の日本経済の復興に大きく貢献をしてまいりました。昭和 27 年には、三井炭鉱を初め大手の炭鉱が大小 24 ございまして、そのころは西日本各地からたくさんの人々が集まってまいりました。昭和 32 年には、人口が 4 万 3,000 人を超えましたが、昭和 30 年後半から国のエネルギー政策の転換によりまして、炭鉱も次々に姿を消して人口も減少し始め、昭和 46 年に町内で最後の炭鉱が閉山いたしまして、その結果現在では、人口が 2 万 2,000 人余り、最高時の約半分に減少して過疎地域の指定を受けております。

町長に就任いたしまして 6 年目を迎えたわけですが、就任以来、住民とともに残る炭鉱閉山の後遺症から脱却するために、ふるさとを愛し、ふれあいのある町づくりを目指して、まず昭和 63 年に町民憲章を制定するとともに、町の花としてヒマワリを、そして町の木としてイチョウを選定して、町民共通の心のシンボルをつくりました。

一方、すべての住民の協力いただきまして、人づくり町づくり推進委員会を発足いたしまして、あいさつ活動、体力づくり活動、美化活動を推進しております。おかげで、この運動も徐々に町内に浸透いたしまして、町民の間に心のつながりが広がり、スポーツの振興による体力づくりの推進とともに、町内を花で埋めようという町民のボランティア活動も根づいてまいりました。

しかし、何と申しましても基幹産業である炭鉱閉山の後遺症は予想以上に大きく、川崎町の発展のためには炭鉱にかかわる産業の振興を図らなくてはなりません。今まで 20 社を超える企業を誘致してまいりましたが、その大半は縫製工場など女子雇用型の企業でございまして、私たちは現在町内にあります岩鼻工業団地という団地を中心にいたしまして、男性雇用型企業の誘致に努力をいたしております。既に、町内での農業基盤整備を推進するために、田川農協のカントリーエレベーター、育苗センター等を岩鼻団地に誘致して稼働をいたしております。また、同じ筑豊地区にある宮田にトヨタ自動車が進出し、刈田町にあります日産自動車工場の増設などがありまして、それに関連する男性雇用型の企業の進出が数社内定いたしております。今後は、県の協力もいただきまして、新たな工業団地の造成に取りかかりまして、産業の振興を今から図ってまいりたいと思っております。

炭鉱閉山は、町民の生活にも全般に大きな影響を及ぼしておりまして、とりわけ住環境の整備につきましては緊急の課題がございます。と申しますのは、炭住街が町内には 2,000 戸近くございまして、これはいずれも老朽化が激しい上に、狭くて不衛生でもありまして、したがって本町では昭和 45 年以来、これらの炭鉱住宅改良事業を続け、今までおよそ 1,300 戸を改良いたしました。現在、最大大手の炭鉱でありました三井炭鉱の住宅改良計画を 10 年間で実施中でありまして、今後の高齢化を考慮いたしまして、平屋建てを取り入れたモダンな改造住宅の建設が進んでおります。

本町には、そのほか 120 床の病床を持つ町立病院がございます。これも昭和 28 年に建設された木造の建物でございましたが、老朽化が激しいために、地域医療の充実という観点から早く改築してほしいという要望を受けておりまして、財政難のためなかなか実現いた

しませんでした。およそ 20 億をかけまして本年度着工する運びになりました。これによって、地域住民の中核的医療機関として貢献できるものと考えております。

また、本町は 36 平方キロと申しまして、決して大きい町ではございませんが、地形が非常に細長いので、小学校が 6 校、中学校が 3 校ございます。中学校の 3 校は全部改築が終わりでしたが、小学校の 6 校につきましては 2 校しか改築されておられません。残りの 4 校は木造の老朽校舎でございますので、次代を担う青年の教育は極めて大切であるということは申し上げるまでもございませんが、おかげで今月・・・この 4 校のうち 2 校、旧安真木村にございました安宅小学校と真崎小学校の改築が終わり、残り 2 校も本年度以降継続して実施してまいる考え方でございます。

最後に、川崎町内の旧安真木村は、今日でも豊かな自然に恵まれた風光明媚なところでございます。私たちはきのうから雪舟さんとゆかりの市町が、この町に相集いまして雪舟サミットを催されておられますが、川崎町にも雪舟さんのゆかりの名勝庭園、国指定重要文化財の藤江氏魚樂園がございます。この魚樂園は、春の新緑、夏の青葉、秋のもみじ、そして冬の雪景色と、四季のいずれの時期にもすばらしい庭園として人々に親しまれております。去る 5 月 3 日には、サミットの御縁で岡山県の総社市から 230 名の小学生の皆さんが訪れてくださいましたし、6 月 7 日には山口市からもお越しいただくことになっております。おかげで、今年間大体 7、8 万の人が訪れております。

安真木地区には、平成元年度に誘致いたしました健康センター、英彦山湯～遊～共和国というホテルもございますし、そのほかフェザントカントリークラブというゴルフ場もございます。それから戸山原古墳、安産の神様として有名な淡島神社、そして町内の最高峰であります戸谷ヶ岳周辺にはオーナー制の観光リンゴ園もございます。現在これを回遊する道路といたしまして、有名な陶芸の里小石原に通じる道路を建設中ではありますが、同時に民間資本の協力もいただきまして安真木地区を観光開発しようというマスタープランも現在でき上がっております。今年度から第 1 期工事に着工いたします。

まだたくさんの課題を抱えておりますが、住民とともに愛、ふれあいの町を目指して頑張っております。来年は、雪舟サミットは私どもの川崎町で開催されることになっております。私たちは今年度から計画を立て、加盟の皆様を住民挙げて温かくお迎えいたしたいと思っております。よろしく願いいたします。

以上で報告を終わらせていただきます。

佐内 正治（山口市長）

ありがとうございました。

それでは、第 1 回サミットを開催をいただきました総社市さんをお願いいたします。

本行 節夫（総社市長）

失礼いたします。総社市でございます。

きのう概要につきまして御報告を申し上げましたが、きょうは特に地域特性を生かしたまちづくりということで御報告を申し上げます。

まずスライドでございますが、ただいま出ておりますのは雪舟が生まれたところであり
ます。ちょうど総社市の東部に山陽自動車道の岡山総社インターチェンジが昨年の春供用
開始されました。まだ東ができておりませんので余り利用はございませんが、そのちょ
うど南の田んぼの中に、雪舟が赤浜に生まれたということを示す記念碑がございます。これ
がその記念碑でございます。ここは今ほ場整備を予定しておりますので、少しこの誕生地
を広くしようと、こういう予定にいたしております。

次に、これは宝福寺でございますが、少年時代をこの宝福寺で過ごしたということはも
う余りにも有名でございます。これは、総社市の市街地からちょっと離れたところに井山
というところがございまして、東福寺派の中本山でございますが、今そこの住職さんが東
福寺の館長になっておられます。何人かの方が管長をお務めになった、そういう由緒ある
お寺でございます。三重塔が見えておりますが、おいでいただいたこともあろうかと思
います。山の中にございまして、一見人の目につきがたいんですが、おいでいただきました
ら春夏秋冬それぞれの風情がございます。

はい次、これは JR の総社駅で先ほどの宝福寺で雪舟さんが涙でネズミをかいたという彫
刻がございます。きょう出席しておられます横田さんの作でございます。

はい次、これはちょうど范曾という中国最高の水墨画の先生が、何年か前に宝福寺を訪
れた際、ここでこの柱に縛られてネズミをかいたんだらうということではございまして、
先生はどうも座っておったんでは涙が下へ落ちない、足へ届かない。だから、立って縛ら
れておったんではないか、こういう想定のもとにいただいた絵でございます。これをテレ
ホンカードにして PR に努めております。またそのほか、全国の自治体へ向けまして発行さ
れております雑誌や機関誌に、総社市と雪舟とのかかわりを紹介する記事を掲載依頼しま
した結果、現在までに中国地建の「みらい」という本でございますか、岡山県のコミュニ
ティ誌、あるいは雑誌の「農」等 4 誌に掲載をされております。

はい次、これも雪舟さんを漫画風にしたテレホンカードでございます。

はい次、ちょっと行き過ぎましたが、それでは今の先へ、今の一つ返して見てください。
実はこれのほかに、名刺をつくっております。テレホンカードが好評でございましたので、
私どものところをつくっております文化振興財団が、ルーマニアで発行されました雪舟の
切手をデザインいたしました名刺を作成いたしました。世界の 10 大文化人ということで
1956 年に「TOYO ODA」として自画像が切手になっておりました。それを入手いたしまし
て名刺をつくり、関係の方に、あるいは希望者に頒布をして、雪舟のふるさととしての総
社市の PR に努めているということでございます。さらに、郵便局でも雪舟の作品を図案化
いたしました雪舟はがき、こういうものを・・・5 枚セットでございますが、販売をして
おります。そのほか文化振興財団では、雪舟足跡めぐりツアーということで、昨年は山口市
と益田市を訪問をさせていただきました。ことしは 8 月下旬に大野町、川崎町を訪れさせ
ていただくこうと、こういう予定でございますが、いずれも募集をいたしましたらもうたち
どころに満席になるというくらい好評でございまして、帰られました方も非常に感激をし、

よかったという声の連発でございます。それからまた、ことしの5月3、4の両日、市の子供会連合会がメルヘンミステリー列車ということで230人川崎町を訪問させていただきました。その節には大変な御歓迎をいただきましてお世話になりました。子供たちも非常に喜んで帰っておいりましたので、お礼を申し上げます。

次を出してください。そのほか、私どものところはきのう申し上げましたが、本市の将来都市像を、「古代と21世紀を結ぶ風格ある文化創造都市」と、こういうことに定められておまして、雪舟を核としたまちづくりのほかに、古代から栄えてきました吉備文化を大切にしながら、そして新しい市民文化の創造を目指しているところでございます。

その一つといたしまして、市の中心部・つまり市役所の東の南北道路でございますが、国道180号から1,300メートル南へ下がると、そこにスポーツセンターがございます。この間の1,300メートルを中央文化筋というふうに名づけまして、計画的に街の整備をしているところでございます。

もちろん区画整理なり都市計画道路でやっておりますから、一応の形は整っているんですが、これに文化性を持たせようということです。ちょうど市民会館の前に広場がございますが、その一角に、今スライドで見えていただいておりますように、不等辺三角錐、一番高いのは、こちらですが、高さが7メートルでございます。全部不等辺でございますが、そのライトアップをした写真でございます。これは、世界的に活躍しておられます彫刻家、四国の庵治にお住まいでございますが、流政之という先生、この方の作品はニューヨークにもございますし、日本でも北海道にもございますし、きのう話がありました彫刻の森美術館でございますが、あそこにもございます。それから四国には、「どたま獅子」というものがございます。これは日本で一番大きい石彫、野面石でございますが、神が辻と名づけられました。備中324社を合祀して総社ができ、その門前町として栄えた、それが発展していったということでございまして、瀬戸内の石を使い、また市内にありました石も使っていただきました。今そこに水を張っております。先日23日、24日と完成のイベントを行いました。これは、初日が能とそれから温羅太鼓というのがございますが、備中温羅太鼓、それから備中神楽、こういうものをやりまして、2日目は市民のための歌、あるいは音楽、いわゆるコンサートでございますが、その上に日本で一、二といわれております小倉知香子さんという方にハーブの演奏をやっていただきました。ライトアップされた前で、幽玄といいましょうか、神秘といいますか、そういう感じのひとときを過ごしたところでございます。

なお、2日目には朝市をやりましたけれども、非常に盛会でございまして、今までもやっておったんでありますが、隣の道路を締め切りまして朝市をやりましたところ、数千人の方が出てくれまして大成功。こういうものをひとつこれからも定着させていこうと、こういうふうに思っているところでございます。

雪舟さん、あるいは総社市の特性というふうなことで今のようなことを実施し、これからも進めていこうと、こういうことでございますが、きのうもお話ししましたように、岡

山県立大学が来年の春開学でございまして、約 30 ヘクタールの水田を使いまして、目下建設工事中でございまして。来年の春までには本館になる建物は全部完成しますが、それに対しても、市も・・およそ 30 億円ぐらいかかると思うんでございまして、いろんな道路、水路等々のつけかえ整備、こういうことをやっておるところでございまして。大学ができますことによりまして文化の薫り高いまちづくりを目指していこうと、こういうことで頑張っているところでございます。

以上、かいつまんだ御報告でございまして。よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

佐内 正治（山口市長）

ありがとうございました。

それでは、前回のサミットでお世話になりました益田市さんをお願いいたします。

大谷 治久（益田市助役）

おはようございます。きょうは、市長が公務で出席することができませんで、まことに申しわけなくお許しをいただきたいと思う次第でございまして。

益田市は、活力に満ち魅力にあふれる産業文化都市を目指して努力をいたしておるわけでございますが、山陰という地理的な問題、そしてまた、とりわけ高速交通網の枠組から取り残された地域でございますので、地域づくりの基本はどうしても交通網の整備という考え方のもとに、かねてから石見空港の建設に取り組んできておるわけでございます。写真にございますように、一応滑走路を中心としてその姿を見せてきておるわけでございます。来年 7 月には一番機が飛ぶ予定に相なっておるわけでございます。滑走路は 2,000 メートルでございまして、滑走路と着陸帯を入れましたその幅は 345 メートルで中型ジェット機が就航できる空港になっておるわけでございます。予定といたしましては、当面東京 3 便、大阪 3 便ということで計画がなされておるわけでございます。したがって、この空港の開港を機として、その受け皿づくりに今一生懸命に取り組んでいるというのが実状でございます。

いま一つは、山陰自動車道が一応国幹審で計画をされておりまして、鳥取県の鳥取市から山口県の美祢市にわたります 380 キロについて部分的に整備がなされておるわけでございますが、昨年の 12 月の国幹審におきまして、浜田・広島横断自動車道が 12 月に開通もいたしましたことございまして、浜田と益田を結びます 33 キロが予定路線から基本計画路線に昇格を見たわけでございます。今後 3 年間にございまして、法線決定、あるいは環境アセスというものが実施をされまして、整備計画にのって来るのではないかと、こういう期待をいたしまして、今後その早期着工に向けて一生懸命に努力を重ねたいという状況に相なっておるわけでございます。また空港が開港してまいりますと、空港に向けてのアクセスについても整備をしていきたいと、こういうことで、目下この高規格道路に合わせまして、この整備についての努力をいたしておるのが現状でございます。

私のところは、県都松江の距離は 170 キロ、山口市との間は 80 キロと、こういうことで

ございまして、いわゆる出雲部との経済圏はございまして、山陽、あるいは九州との経済圏域に益田市はなっておるわけでございまして。それだけに、経済交流、あるいは人的交流につきましては、山陽筋、あるいは九州との交流が盛んになってきておるわけでございまして。それだけに、広域観光を含めまして、いわゆる地域の自然の資源を活かしたリゾート開発整備を進めたいと、こういうことで平成元年に益田地域海浜リゾート整備計画を策定いたしまして、目下着々とその事業の具現化に相努めておるわけでございまして。この写真に出ておりますのは、いわゆる三里ヶ浜の一部の持石海岸ということでございまして、ここは数キロにわたりまして美しい砂浜でございまして、いわゆる石見潟ということで女性的な美を持っておる海岸であるわけでございまして。この丘陵地が今申し上げました空港に相なるわけでございまして、このシーサイドゾーンと丘陵地を含めました広域的なリゾート整備を今している、というのが状況でございまして。現在、この海岸線は浸食もございまして、緩傾斜護岸整備を今進めておるわけでございまして。その背後地につきましては、環境整備を行いまして、観光客の利便に供するためのそれぞれの施設を配置していこうということで努力をいたしております。

また、私の方といたしましては、自治省のふるさとづくり特別事業におきまして、ふれあい広場を整備いたしました。この3月に完成をして、目下供用開始をいたしておりますが、ちょうど国道191号線が通っておるわけでございまして、今日国道の方で言われております、いわゆる道路駅としての機能も持たせたこのふれあい広場の活用を今図っておるというのが現状であるわけでございまして。

私の市は現在人口は5万2,600人ということでございまして、平成2年の国調におきましては1,600人ばかりの減少を見ておるわけでございまして。今後地域づくりを進めるためには、若者がいかに魅力を持って定着をすることができるかということに相なるわけでございまして、何といたしましても、ただいま申し上げましたリゾート整備と相まって、工業団地造成をしていきたいということで、本年から県と一緒にしまして、県営の工業団地として有効面積40ヘクタールを造成をしようということで、現在用地買収に取りかかろうとしておるのが現状でございまして。

また、市の単独事業といたしましても、有効面積約3.5ヘクタールの団地造成を今年から実施をして、企業誘致をしていくということで取り組んでおるわけでございまして、せっかく空港ができるわけでございまして、フライト産業、フライト企業の誘致についてこの団地造成と相まって、さらに努力をしていき、そして、若者の定住を図っていきたく、このようにも考えておるわけでございまして。

益田市は、昨日もお話を申し上げましたが、柿本人麿と雪舟に代表せられます歴史文化に薫るまちであるわけでございまして、この歴史文化遺産というものを大事にしながら、また後世に継承しながらこの保存活用に相努めておるわけでございまして。さらに、この文化遺産にあわせまして、やはり先ほども話がございましたように、人づくりというものが必要であるわけでございまして、いまひとつはやはり生涯学習というものが今日的に非

常に大きな課題にも相なっておるわけでございますので、現在図書館とライブラリーの機能を複合させました益田パルカディアインテリジェンスセンターを昨年と本年度2カ年計画事業で、約15億をかけて建設をいたしておるわけございまして、これを生涯学習、あるいは文化施設の拠点として機能させていきたいと、このようにも考えておるわけでございます。

また、平成2年には雪舟の郷記念館も建設したわけでございますし、島根県の方にもお願いを申し上げまして、県西部の拠点都市であります益田にぜひとも県立美術館の建設をさしてもらいたいということで誘致運動を展開しておるわけでございます。この県立の美術館と相まって、やはり文化施設ゾーンを確立をしたいということで、市内部におきましてそのゾーンづくりについて検討を重ねているのが現状であるわけでございます。

それから、雪舟にかかわりまして、現在私の方は中国のニンポーいわゆる寧波市でございますが、これと友好交流を重ねておるわけございまして、本年で5年目を迎えるわけでございます。昨年の10月には市長が参りまして一応両市間におきます議定書の取り交わしをいたしまして、今後経済文化を中心とした交流を一層深めていこうということに相なっておるわけでございます。今年中国側からは農業視察団、農業研修生、そして公式な使節団のお迎えをする予定にもいたしておりますし、益田市からは、やはり中国の農業視察、そしてまた夏休みには、子供のいわゆる友好使節団を派遣したいということで、21名の団編成で8月中に中国に行き、中国の子供と交流を深めさせて、そして国際感覚を身につけさせたいと、こういうような考え方で計画もいたしておるような次第でございます。今後一層この雪舟にかかわります寧波市との友好交流をさらに進めていきたいと、かように思っておるような次第でございます。そういった当地におきますところの地域振興を図るには、何といたしましても、市民と一体となった努力が必要であるわけでございますので、かねてから私どもといたしましては、3つの市民運動を展開をいたしておるわけでございます。1つは"さんらいず運動"。"さんらいず運動"といいますのは、地域産業の振興を図るために人や村おこしをするということでございます。それから、"健康づくり市民運動"。お互いが自分の体は自分で守っていこうという、やはり基本的な考え方に立っての健康づくり運動を展開をいたしまして、健康に対しますお互いの意識高揚を図っていこうということにいたしておるわけでございます。また3つ目は"生涯学習まちづくり運動"。ただいま申し上げましたように文化の薫るふれあい豊かな地域をお互いにつくろうということで、この3つの市民運動を市民ともどもに展開をいたしておるわけございまして、今後とも努力を重ねてまいりたいというような考え方を持っておる次第でございます。

以上が、今日益田市が取り組んでおります現状を御報告を申し上げた次第でございますが、今後ともサミット構成市町の御支援もいただきながら21世紀に向けてのあるべき益田市の姿を確立をしていきたいと、かように考えておるところでございますので、また御指導をいただきますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

佐内 正治（山口市長）

ありがとうございました。

それでは、今回新たに仲間入りをされました芳井町さんをお願いをします。

佐藤 孝治（芳井町長）

皆さんおはようございます。

早朝からお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。ゆうべ休む前に、私と同行いたしております総務課長と教育委員会の渡辺次長が、山口の市長さんの時間を分捕ったような感じがしたから、きょうは余り言うちゃいけませんよというさしがねをもらっとるわけなんですけど、せっかく仲間入りをさしてもらったということで、皆さん方にまずお礼を申し上げておきたいと存じます。

きのうの臼杵館長さんのお話によりまして、死んだところは3カ所あるが、これは追求しないというふうなお言葉をいただきまして、若干寂しさもあり、またそれでいいんかなあという感じもいたしておるところでございます。

今、ここに出ておりますのは、芳井町の観光地の天神峡と申し上げるところでございます。これは春夏秋冬、一番多いのが夏だと思っておりますが、近隣周辺の子供会、そして小学生、中学生、水遊びするのが非常にいいというところでございます。この欄干も今赤く塗っておりましたが、村おこし事業で県の助成を得て事業をやったものでございます。年間、夏のシーズンにお客さんが約3万5,000人参ります。これがしかし、この土地が全部、私有地として神社の社有地になっておりますので、なかなか開発が難しゅうございます。

と申しますのが、私が選挙に立候補いたしました折に、三つどもえ選ということで戦ったわけで、そのしこりが非常に厳しく出ております。しかし、きょうのこのサミットのお力添えを賜りまして、山口市、そして益田市、岡山県の総社市、そして大野町、川崎町のお力を賜りながら、この雪舟の里を大きく売り出そうということであります。現在私の方には「雪舟を語る会」というのが今年の3月に結成されまして、それには私も雪舟終焉の地におります関係で、小さい部落ではありますけれども、その産ということで私と町議2名加えていただいております。具体的なまだ方法が見つかっておりませんが、まず名刺とそれから案内板をつくらうということで、現在、案内板はつくっております。

何しく過疎の町でございますので、この過疎対策としては、町営住宅が現在100戸ございますが、これではまだ少ないと。合併当時1万2,356人という人口が、現在は7,000人を割っておるというふうなことから考えますと、若者の定住を図ってひとつ人口をふやそうということで、今年の1月上旬にも知事と直談判をいたしまして、所得制限のない町営住宅を企画しておるから、是が非でも知事さんひとつ融資を願いたいと、補助金のお願いをいたしました。

したがいまして、融資を受けてやったならば、自由に町営住宅の方も運営ができるということをお願いをいたしましたところ、知事さんいわく、そんなこっちゃ住民はふえやし

ないよと、持ち家制度をやんなさいと、分譲宅地をやり、そして持ち家制度を実行しなさいと。融資することはまかりならんというふうな厳しいお話でしたが、知事さんその持ち家制度については62年からやると。実は、私の方ではこの過疎に対応するために持ち家制度を町営でなくて、町有住宅制度を設けております。1,000万円程度をかけ、家賃は月々3万円いただいております、これを一定の期間支払っていきますと、払い下げをいたしますという制度でございます。そういうふうなものをやるとんたということをお知事に申し上げましたところ、おい、新米の町長と口やかましい町会議員が5人も来て言うからもう中折りしようということで、それでは融資しようというふうなことになりまして、今年3億円をかけ2カ年計画で3階建てで1階部分が6戸入所できる18戸を3億2,000万円で行うことに踏み切っておるところでございます。敷地につきましては平成3年度で完了をいたしております。

そういうことで、ひとつ若者をふやそうという計画でございますが、まだ、どうしてもそれだけでは物足りないということから、過疎の脱却ということをおねらい、「いきいき町づくり条例」というものをこの4月から発足いたしておるところでございます。内容といたしましては、芳井町内で結婚されて芳井町内で永住という方には、結婚祝い金10万円を差し上げます。その仲人をしてくださった方、いわゆる仲人奨励金、これは3万円出します。それから、今人口が非常に減っている、若者が赤ちゃんをたくさんつくらんとということで、全国平均でいきますと1.5人程度というふう聞いておりますが2人目からは、ひとつ誕生日祝い金を町の方で出しますということも、この「いきいき町づくり条例」に織り込んでおります。

それから、中学校、高等学校、大学を卒業されて芳井町に住んで永住しようという方には、ここで留町・留置く町・留町助成金も出すことにいたしました。

それから、急場をしのぐということにつきましては、近隣の工業地を有するところの総社市さん、井原市さん、福山市さん、これは広島県でございますが、そういうところから芳井町へ帰って、そして芳井町の自宅から通勤というお気持ちになってくださった方には、Uターン奨励金、これも出すことにいたしました。

それから現在、国際交流といいましょうか、国際研修といいましょうか、海外研修にお出かけになった方には予算の範囲内で助成金を差し上げています。

それから、地域の産業に抜群の功労を残してくださっている方にも、これにも助成金を差し上げます。なお、地域活性化に大きな努力をしてくださるという方に対しましても、助成金を差し上げますということで、今7件、去る5月20日に町長室におきまして褒賞金を出したところ、それを新聞、それからテレビ等でも放映をしていただいたというのが現況でございます。

先ほど大野町さん、川崎町さんも非常に農業を主体とした町だとおっしゃいましたが、私のところも全くそのとおりでございます、町の面積の約80%弱が山林でございます。そのうちに、畑、田んぼもございませうけれども、標高400から450メートルの大地に昔の

合併前の一村がございませう。明治村と申しますが、ここは大腸がんが一番効果の高い「明治のゴボウ」というゴボウの産地でございまして、折がありましたらひとつ「明治のゴボウ」も「ゴボウイベント」というのも毎年行っておりますので、ぜひひとつお越しいただきたい。

なお、重玄寺の由来につきましては昨日も若干申し上げましたが、雪舟が永正3年に亡くなったということで、58年に終焉地という碑も建立をいたしております。したがって、これからこの雪舟の里へ力を入れていきたいと。まず日本画の里ということぐらいから、ひとつ皆さんにPR申し上げるのがいいんじゃないかというふうに思うわけでございませう。

これは、岡山県の文化財に指定を受けておりますところの「渡り拍子」といって、頭に鶏の羽をつけて・・・これを「赤熊」といって、ああいう格好ではね踊り、若者、中学生、小学生というふうに取りまぜての「渡り拍子」を行うわけでございませうが、先ほどから申し上げますように、小学生、中学生が非常に少なくなっております。この「渡り拍子」の地域にあります小学校は、わずか児童が16人でございませう。そういう関係から、これに従事する者がいなくなるということで、町役場の職員にこの地区から勤めているものが、だんだんと役場周辺に家を新築しまして出てきております。お父さんから十分習って、その子供もこの地区へ帰ってお祭りにはひとつ参加してくれということで、町長もそのときには、役場の職員である関係上大目に見てやってくれということで、私はそれはよかろうと言うんですが、きょう来とります総務課長は、そういうわけには町長いかんじゃと、お祭りに勝手に休むとは何事かということをお知らせしておりますが、そう言うなど。これも芳井町の活性化になる一行事であるから、というふうなことを申し上げておるところでございませう。

余り長くしゃべりますと、山口市長さんにまた御迷惑をかけますので、このあたりで終止符を打たしていただきますが、どうか先進地の3市2町さん、どうか力強い御支援とアドバイスを私に賜りますよう、お願いをいたしまして私の場を終わらせていただきます。

どうも大変御無礼しました。

佐内 正治（山口市長）

ありがとうございます。芳井町長さんに大分気を使っていたいただきましたが、私のしゃべるのが5分しかなくなりまして、大分時間がオーバーをいたしておりますがきのうも省略しましたので、きょうも省略しますと何もしゃべらないこととなりますので、ごくかいつまんでお話しいたしましょう。

御案内のとおり、山口市は今から約600年前、中世に大内氏によって開かれた町でございませう。その大内文化の非常に絢爛たる中で、きのう、きょうとこのテーマになっております雪舟が山口に訪ねてきた。きのうお話でお聞きになったとおりでございませう。あるいは、フランシスコ・ザビエルが初めて日本で布教をした地であるというようなところでございませう。

徳川時代は、藩政の中心が萩市にいておりましたが、幕末になりまして毛利の13代敬親公が萩から山口に藩庁を移してまいりました。それからまた山口市が脚光を浴びるわけでございます。したがって、市内をごらんになりますと、大内時代の遺跡、文化財、あるいは幕末の遺跡、文化財というようなものが市内にたくさんございます。

それから最近になりますと、テクノポリスの地域に指定されておりますし、あるいは郵政省のテレトピア、あるいはニューメディアコミュニティーの指定、あるいはハイビジョンシティにも指定をされております。近くは、頭脳立地法によりますところの地域の指定も受ける予定になっております。

さらには、人工衛星の受信施設のそのうち4つばかりが山口市にございます。まずKDD、それからSCCですか、宇宙通信株式会社、あるいはITJ国際通信株式会社、あるいは皆様方に関連のございます自治体衛星通信機構の管制局が当市にございます。こういうことから、いわゆるパラボラアンテナの里とも言われており、いわゆる古い文化と最近の先端技術の両面が当市の非常な特徴であろうかと思っております。

したがって、人口も毎年1,000人ずつぐらいはふえております。最近では、人口の伸び率は県下の市のうちトップをいっております。そういうようなことで、人口増加のために、新しいまちの基本づくりを今しっかりとしておかなければならないという課題がございます。

そういうような中で、特に地域特性を活用したまちづくりということで、まず最初に雪舟さんを核としたまちづくりに関する報告でございますが、現在国道9号バイパスの建設工事が行われております。この地下道の2カ所に雪舟ゆかりの、例えば四季山水図や雲谷庵といったものをこのデザインをしたこのレリーフを設置しようというふうなことを考えております。

それから、地域特性を活用したまちづくりでございますが、まず本市では、平成元年に策定いたしました第四次総合計画の中で、将来の都市像を「自然と文化をはぐくみ躍動する中核都市」というふうに位置づけており、自然と生活空間の調和したまちづくり、そして文化と生活空間の調和したまちづくりを施策の中心に掲げ、これを総称いたしまして、「彩りのあるまちづくり」と呼んでおります。ここはパークロードが出ておりますが、これから御報告申し上げますまちづくりにつきましては、現在本市が進めておる「彩りのあるまちづくり」の一環として理解をしていただければと考えております。

まず一つは、遊々湯の町整備事業、中原中也館の建設でございます。これは今まだスライドがございませんが、ここ湯田温泉は御案内のとおり西日本の有数の温泉地でございます。年間90万人の方がお泊まりにおいでになります。この湯田温泉は、本市が生んだ近代詩人中原中也の誕生地でございます。ぜひこの誕生地に記念館ができないものかという要望も多く寄せられており、新たな観光スポットを開発するために、自治省のまちづくり事業にのりまして、現在整備に向けて諸準備を進めておるところでございます。ここの会場から歩いて二、三分のところでございますが、またのお越しの節には御披露できるのでは

ないかと考えております。ことしから着手することにしております。

それから、クリエイティブ・スペース赤れんがでございますが、これはここに今スライドがございますが、1億円の知恵比べと言われましたふるさと創生事業に関連いたしましたは、本市では有識者からなる「彩りのあるまちづくり協議会」を設置いたしまして、ここで御協議をいただきながら実施をまいりました。

この建物は、大正7年に建設されました旧県立山口図書館の書庫でございますが、これは赤れんがづくりの3階建ての全国でも貴重な建造物でございますが、周辺にツタのからまった様子は、きのう螢を鑑賞していただいた一の坂川周辺のたたずまいと調和し、四季折々に風情のある表情を見せておりました。しかし大正17年に建設されたため老朽化が著しく、解体する予定とされておりましたが、保存再生して文化の場として活用できないかといった市民運動の高まりもございましたので、整備をいたしました。1階はギャラリー機能を備えた多目的ホールといたしており、各種展示会の開催が可能となっております。2階にはグランドピアノ、移動式舞台といった設備を備えておまして、コンサートやリサイタルに適したものとしております。名称も市民から募集しまして、「クリエイティブ・スペース赤れんが」というような名前にいたしまして、いわゆる芸術の発信の場にしようということにいたしております。

それから、次は市民スポーツの森整備事業でございます。文化の振興に続きましては、スポーツ・レクリエーション関係のまちづくりについてでございますが、今年度からスポーツ振興のために、市民スポーツの森整備事業を進めることといたしております。

それから南部は、山口市は海がないんじゃないかと思われておる皆さんもあるようですが、山口湾というのがございまして、また山口港もございまして。南部はそういった海水浴場、キャンプ場等の海洋活用型のレクリエーションゾーンとして開発整備しようとしております。

それから、次に今から御案内をいたしますが、ニューメディアプラザ山口でございます。山口市を情報業務文化ゾーンの・・きのうもちょっと螢を見においでになった方は途中で説明いたしました。現在、情報文化都市構想に向けましてゾーンの整備を計画しております。後ほど御案内いたしますインテルジェントビルがそのまずはしりと申し上げていいかと思いますが、そういった高次都市機能を集積いたしまして、今後新都心として育成し、経済のソフト化、サービス化に対応した都市形成を進めてまいることといたしております。

それから、きのう螢を見においでになりました方は、ちょっと御案内しましたが、ここに今見えますのが山口ふるさと伝承総合センターでございます。現在山口では、高齢化社会を展望いたし「健康福祉システム」、あるいは「学習文化システム」、「人材活用就業システム」、「住宅生活環境システム」及び「支援情報システム」、この5つのシステムの整備を行っておりますが、ここでは、生涯学習体制の整備充実というような見地からこの施設を整備いたしました。今ここでやっておりますのが大内塗りの製作の実演をやっておりますとこ

るでございます。

それから次に、ポケットパークの整備でございますが、これはいわゆるガーデンプリッジと言われるものでございます。山口市は、橋をちょっと広げまして橋の上をポケットパークとして逐次整備をいたしております。

時間がございませんので、大急ぎではしょって説明いたしましたのでおわかりにくかったかと思いますが、時間がもう切迫しておりますので、この辺で山口市のまちづくりについでの説明は終わらしていただきまして、今から市内を御案内をする折々に、また具体的に御説明をいたしたいと思っております。

ここで一通り御報告をいただきましたが、この第1回のサミットでは小中学校での郷土学習に雪舟を加えたらどうかというお話、それから修学旅行、先ほども今総社市長さんからございましたが、修学旅行の行程に雪舟ゆかりの地を加え、あるいは2点目として、物産や郷土芸能などの交流を行う。3点目として、雪舟の史跡めぐりツアーを実施できないかというようなことが、議題に第1回では上りました。

それから、第2回のサミットでは広報誌や観光、文化財この資料等の交換、雪舟ゆかりの中国の都市との姉妹提携・今お話がございましたが、そういうお話もこの可能性を大いに勉強してみようじゃないかということで、この中国との提携というようなお話も先ほどあったわけでございます。

こういった問題については今この場でいろいろ協議をしようかなと思ったわけですが、時間も切迫いたしてまいりましたので、事務局の連絡会議等で今後詰めていくことにいたしたいと思っておりますが、よろしゅうございましょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）それではこれからのさらに今後どういうものを具体的に進めていくかということにつきましては、この事務局の連絡会議で今後詰めさしていただきたいと思っております。

それから、今回のサミットでは一応シンボルマークを一応つくってみたわけですが、お手元にこの表紙に、ここの真ん中にお月さんが上がっているようなのがございます。一応このサミットのシンボルマークとして今後使わしていただくとうれしいなと、こういうふうにしております。連絡会議でお話ししておるようですから、もしよければこれを今後からシンボルマークとして使わせていただくということで御了解をいただきたいと思っております。

それでは、サミットに参加のそれぞれの自治体が、雪舟文化を中心に今後ますますの交流、友好が深まりますように、サミット宣言の採択に移りたいと存じます。お手元の資料の12ページをお開きいただきたいと思っております。

この宣言文のとおり、採択することにいたしたいと思っておりますが、一応宣言文を読んでみたいと思っております。お手元に大変立派な宣言文をお配りをいたします。よろしゅうございましょうか。

春夏秋冬 自然の織りなす交響詩を長巻の山水画に昇華させた偉業「四季山水図」。

この気魄に満ちたエネルギーは、風景を超え自然界の輪廻を造形する。

動乱の世にあって漂泊し、終生「造化にしたがい 造化にかえる」自在な日々をおくった画聖 雪舟。

ここ西の京山口の地にゆかりの自治体が相集い、雪舟の業績を顕彰しつつ、互いのまちづくりについて情報を交換し、親睦と友好を深めることは、今後それぞれが歴史と文化を踏まえた個性豊かなまちづくりを進めるうえで、大きな意義を有するものと確信する。

よって、ここに関係市町が21世紀に向かってともに雄飛するため、雪舟文化をはじめとした各分野の交流事業を今後未長く進めていくことを宣言する。

平成4年5月29日。

第3回雪舟サミット参加自治体交流会議。

以上でございます。

ありがとうございました。それでは、ただいま朗読をさせていただきましたような趣旨の宣言文を採択いただきまして、ありがとうございました。

それでは、続きまして次期開催地をお願いいたしております川崎町さん、次期開催地ということで一言ごあいさつをお願いいたします。

原口栄弘（川崎町長）

まずおわび申したいと思いますが、芳井町長さんが申されましたように、きのうかなり時間が超過いたしました。その一番大きい原因は私にあったと思います。20分余り超過したようでございまして、もともと原稿を書いてもらってきておりましたが、私は原稿を読まない癖がありましてね、悪い癖でありまして、きょうもうちの課長が頭を絞ってきちっと書いておりましたが、私がやるとそれを読まなくてやる癖がありますので、時間が超過いたします。きのう3分というのが恐らく20分ぐらいかかったと思います。そうしますと7倍、きょうは15、6分ということでございまして、7倍しますと100分を超えます。そうしますと山口市長さんの話す時間がなくなりますので、助役に命じてうちのスタッフが頭を絞って考えたのを読ましたわけでございます。

しかしながら、ただここに来まして、やはりそれはそれとして私が読まなきゃいけないやっとなあと反省しておるところでございます。前回益田市さんのところでお世話になりましたが、そのときも公務のため2日目は朝早くから帰りました。きょうもまた、これが済んだら帰って、県の水道協会総会、そこでおまえ正議長をやれということでございまして、1時半に帰っていかなきゃいけないので失礼いたしますが、いずれにいたしましても大変勉強になりました。サミットというところに参加させてもらったのは2回目でございます。またきょうのような席は初めてでございますが、非常に意義のある会であったと、かように思っております。

最後に山口市長さんが御提案になりましたサミットの宣言文、さらにまたシンボルマー

ク、それは私の方もそれを採用して守っていきたいと思っておるところでございます。

ともかくこの次は私のところの順番であるようでございますので、今からどうしようかと頭をひねっておるところでございますが、ともかく田舎の町でありますけれども、産炭地域というところは、後遺症が非常に残っておりまして、こういうところで一般と違ったところであるなあということを、いろんなことを勉強していただければ幸いであると思います。いろんなことで、一生懸命に相努めますので、どうぞおそろいで福岡県の川崎町にお越しくださいますように、心からお願い申し上げますとごあいさついたします。

ありがとうございました。

佐内 正治（山口市長）

どうもありがとうございました。

本廣 隆久（山口市企画財政部長）

昨日に引き続きまして、御熱心に御報告並びに御協議をいただきまして、まことにありがとうございました。

皆様ゆかりの市長様、町長様に今一度温かい拍手をお願いいたします。

どうもありがとうございました。

本日御参加いただきました皆様方におかれましては、長時間にわたり御熱心にお聞きをいただき、心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

以上で、第3回雪舟サミット交流会議を終わらせていただきます。